

北国街道「わかつきの村々の歴史を知ろう」 ～第3回“ふるさと若槻”史跡伝承事業 講演会～



12月1日(日)、コミわか区長部主催で若槻出身のお二人を講師に講演会を開催しました。

金子弘さん(若槻郷土史研究会会長)は「北国街道・新町宿の盛衰」の演題で、古道跡に残る現在の稲積一里塚とは別に、約400年前に開通した今の北国街道にも当初は一里塚(稲田神社の辺りと推定)があったのではという提起から始まり、若槻には全国的に有名な旅館が2軒もあるほど栄えた往事の北国街道のエピソードから明治に入り開通した鉄道によってさびれていくまでを話されました。

また桜井峰治さん(長野郷土史研究会会員)は「身近な史跡とのふれあい」の演題で、北国街道には「佐渡の金を江戸に運ぶ道」、「参勤交代の道」、「善光寺への祈りの道」という3つの役割に加え、「塩の道」の役割もあったとの話に始まり、北国街道の枝道・裏道の話、若槻氏の盛衰や平成16年に若槻小学校の子供達が発見した出城跡の話、水質が優れた田子には明治以前には8軒の造り酒屋があり、明治天皇の北陸巡行では御膳水として供された話などを話されました。出席者は76名と盛況でした。(区長部)

(回覧では第2回となっていました。訂正してお詫び申し上げます)

新駅の早期設置を副市長に陳情!

12月13日(金)に、倉島古里住民自治協議会長、金子若槻住民自治協議会長、黒田長野高専校長以下、総勢12名が長野市役所を訪れて、黒田副市長に市長宛の『新駅の早期設置に関する要望書』を手渡しました。

黒田副市長から北長野～三才間への設置の確約はありませんでしたが「平成24年の調査(北長野～三才間への設置に優位性が認められると結論づけ)を踏まえ、需要予測や費用対効果などのデータをそろえて平成26年までに国への申請を図っていきたい」との説明がありました。また「高専などの学校や長野市民病院も近くにあり、北部幹線のJR信越線アンダー工事も進んでおり、相乗効果も期待できる活気ある地域」、「地域の合意形成やバックアップが重要だ」との話に対し、倉島会長から「高専と古里/若槻両地区の役員が一体となった研究会を立ち上げ、高専の学生も加わって新駅と三才駅(既存)の利用促進について検討を進めている」と話した所、黒田副市長は「鉄道は安全に人を運ぶだけで、利用が増えるかは地域の熱意ある取り組みにかかっている。学生も参加した取り組みはモデルケース」と評価しました。終始和やかな雰囲気でした。

若槻からは金子会長のほか、須藤区長部長、福澤区長部副部長、花岡事務局長、小林若槻支所長の5名が出席しました。(長野市東北部並行在来線活用研究会)



新交通システム導入可能性について

若槻まちづくり計画の「交通体系の整備検討プロジェクト」では、新交通システムの研究を行っています。ここでは、長野市が調査した「新交通システム導入可能性」を参考にしていますが、これは長野市ホームページで一般に公開されていますので、皆様もご覧になってみてください。

(交通体系の整備検討プロジェクトチーム)

長野市ホームページ>組織で探す>交通政策課>新交通システム導入可能性について～市内全域を対象とした可能性調査～